

## TS590ユーザーコマンド説明

ユーザーコマンド参考例 (TS590\_\_s d . t x t)

PS;MD<05+2, 1=MD>

MD6<05>

PC<05+2, 3=PC>

PC005<05>

IF<05+5, 5=IF>

TX<05>

RM<05+3, 4=RM1>

RX<05>

PC<05>

MD<05>

15, 5, 0 (TS590はフルスケール30なのでSWR2.5は18程度?)

実機での確認がありませんのですべてコマンドマニュアルでの推測設定です。

実機でご確認、「TS590\_\_s d . t x t」の修正をお願いします。

<内容の詳細>

1：現在モードの読出し

PS;MD<05+2, 1=MD>

- ・ ・ 送信[MD], 0.5秒待機, インデックス2から1文字記憶, 受信先頭文字[MD] (他の返信は無視)

最初のPSはリグが受信ポートのゴミ等でコマンドを正常に受信できない場合があるため、ダミーで送信しています。

MD	運用モードの設定、読み出し										[TS-590/ TS-590 G共通]
	設定	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
読み出し	M	D	P1	:							0: 未使用 (設定不可) 1: LSB 2: USB 3: CW 4: FM 5: AM 6: FSK 7: CW-R 8: 未使用 (設定不可) 9: FSK-R
応答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	M	D	P1	:							

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3.pdfより抜粋)

2：チューニングモード設定

MD6<05>

- ・ ・ 送信[MD6], 0.5秒待機 (返信は無視)

MD	運用モードの設定、読み出し										[TS-590/ TS-590 G共通]
	設定	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
読み出し	M	D	P1	:							0: 未使用 (設定不可) 1: LSB 2: USB 3: CW 4: FM 5: AM 6: FSK 7: CW-R 8: 未使用 (設定不可) 9: FSK-R
応答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	M	D	P1	:							

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3.pdfより抜粋)

3 : チューニングモードにおける現在の出力読出し

PC<05+2, 3=PC>

- ・送信[PC], 0.5秒待機, インデックス2から3文字記憶, 受信先頭文字[PC] (他の返信は無視)

PC		送信出力の設定、読み出し										[TS-590/ TS-590 G共通]
設定		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	パラメーター TS-590S/ TS-590SG: P1 005 ~ 100: SSB/ CW/ FM/ FSK 005 ~ 025: AM
		P	C	P1	P1	P1	:					
読み出し		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	TS-590D/ TS-590DG (TS-590S/ TS-590SGの50W/パワーダウン改造時を含む); P1 005 ~ 050: SSB/ CW/ FM/ FSK 005 ~ 025: AM
		P	C	:								
応答		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	TS-590V/ TS-590VG: P1 001 ~ 010: SSB/ CW/ FM/ FSK (HF帯) 001 ~ 020: SSB/ CW/ FM/ FSK (50MHz帯) 001 ~ 005: AM
		P	C	P1	P1	P1	:					
												<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パワーファイン機能がオンのときは、1W刻みで設定できます。</li> <li>・ パワーファイン機能がオフのときは、5W刻みで設定できます。もし5W刻みでない値を入力した場合、端数は切り下げ、5W刻みで設定できる値に補正されます。(例:P1に093と入力した場合、090に補正されます。)</li> <li>・ TS-590V/ TS-590VGはパワーファイン機能の設定に関わらず常に1W刻みの設定になります。</li> <li>・ 設定時に最小値以下の値を入力した場合は最小値に、最大値以上の値を入力した場合は最大値になります。</li> </ul>

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3.pdfより抜粋)

#### 4 : チューニング出力設定

PC005<05>

- ・ ・ 送信 [PC005], 0.5秒待機 (返信は無視)

PC	送信出力の設定、読み出し										[TS-590/ TS-590 G共通]
設定	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	パラメーター TS-590S/ TS-590SG: P1 005 ~ 100: SSB/ CW/ FM/ FSK 005 ~ 025: AM
	P	C	P1	P1	P1	:					
読み出し	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	TS-590D/ TS-590DG (TS-590S/ TS-590SGの50W/パワーダウン改造時を含む); P1 005 ~ 050: SSB/ CW/ FM/ FSK 005 ~ 025: AM
	P	C	:								
応答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	TS-590V/ TS-590VG: P1 001 ~ 010: SSB/ CW/ FM/ FSK (HF帯) 001 ~ 020: SSB/ CW/ FM/ FSK (50MHz帯) 001 ~ 005: AM
	P	C	P1	P1	P1	:					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パワーファイン機能がオンのときは、1W刻みで設定できます。</li> <li>・ パワーファイン機能がオフのときは、5W刻みで設定できます。</li> </ul> <p>もし5W刻みでない値を入力した場合、端数は切り下げ、5W刻みで設定できる値に補正されます。 (例: P1に093と入力した場合、090に補正されます。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TS-590V/ TS-590VGはパワーファイン機能の設定に関わらず常に1W刻みの設定になります。</li> <li>・ 設定時に最小値以下の値を入力した場合は最小値に、最大値以上の値を入力した場合は最大値になります。</li> </ul>											

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3.pdfより抜粋)

5 : 現在の周波数読出し

IF<05+5, 5=IF>

- ・ 送信 [IF], 0.5秒待機, インデックス5から5文字記憶, 受信先頭文字 [IF] (他の返信は無視)

IF	運用状態の読み出し										[TS-590/ TS-590 G共通] パラメーター	
読み出し	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	P1	表示周波数 (1Hzオーダーで11桁) (例: 00014175000=14.175MHz)
		F	:								P2	スペース(5)
応答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	P3	RIT/XIT周波数と土を1Hzオーダーで5桁表示、 +はスペースでも代用可。例: +5320=5.32kHz
		F	P1	P1	P1	P1	P1	P1	P1	P1	P4	0: RIT OFF 1: RIT ON
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	P5	0: XIT OFF 1: XIT ON
	P1	P1	P1	P2	P2	P2	P2	P2	P3	P3	P6, P7	チャンネルNo. (MCコマンドパラメーター参照)
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	P8	0: RX 1: TX
	P3	P3	P3	P4	P5	P6	P7	P7	P8	P9	P9	運用モード(MDコマンドパラメーター参照)
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	P10	ファンクション(FR/FTコマンドパラメーター参照)
P9	P11	P12	P13	P14	P14	P15	:			P11	スキャン状態(SCコマンドパラメーター参照)	
											P12	0: シンプレックス運用 1: スプリット運用
											P13	0: OFF 1: トーンON 2: CTCSS ON 3: クロストーン ON
											P14	00~42: トーン/CTCSS周波数(TN/CNコマンドパラメーター参照) トーンがONのときは、トーン周波数になります。 CTCSSがONのときは、CTCSS周波数になります。 クロストーンがONのときは、送信中はトーン周波数、受信中は CTCSS 周波数になります。 いずれもOFFのときは、トーン周波数になります。
											P15	0: 常に"0"
											<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オートインフォメーション(AI)機能がONのときは、RIT/XIT周波数に変化があった場合とメモリーチャンネル周波数を一時変更した場合(区間指定チャンネルの周波数変更を含む)に、自動的に応答コマンドを出力します。</li> <li>・ IFコマンドではデータモードのON/OFF状態の読み出しはできません。</li> </ul>	

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3. pdfより抜粋)

6 : 送信の開始

TX<05>

- • 送信 [TX], 0.5秒待機 (返信は無視)

TX	送信状態の設定										[TS-590/ TS-590 G共通] パラメーター: P1
	設定	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
応答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TXコマンドでパラメーターP1を省略した場合は、SENDによる送信 (マイク音声の送信) になります。</li> <li>• 応答コマンドは、AI機能が働いているときのみ出力します。</li> </ul>
	T	X	P1	:							

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3. pdfより抜粋)

7 : SWR 値の読出し

RM<05+3, 4=RM1>

- • 送信 [RM6], 0.5秒待機, インデックス3から3文字記憶, 受信先頭文字 [RM] (他の返信は無視)

RM	メーター選択、メーター値読出し										[TS-590/ TS-590 G共通] パラメーター: P1
	設定	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
読み出し	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	P2 0000 ~ 0030: メーター表示上のドット数 出力値は相対的なものです (メーター表示上のドット数)。
応答	R	M	P1	P2	P2	P2	P2	:			

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3. pdfより抜粋)

注 : ここでの設定はリグ液晶表示のメーター種別設定で、読出しは「RM ;」を送信する

と「RM1XXXX; RM2XXXX; RM3XXXX;」と3つ返信される (RM1XXXXがSWR値)

- • • 推測です (リグがありませんので、おそらく480と同じと思われます)

8 : 受信に移行

RX<05>

- 送信[RX], 0.5秒待機 (返信は無視)

RX	受信状態の設定										[TS-590/ TS-590 G共通] パラメーター: パラメーター無し
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
設定	R	X	:								・ 応答コマンドは、AI機能が働いている時のみ出力されます。
応答	R	X	:								

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3. pdfより抜粋)

9 : チューニングモード出力の復元

PC<05>

- 送信[PC\$\$\$](\$\$:③での受信文字列), 0.5秒待機 (返信は無視)

PC	送信出力の設定、読み出し										[TS-590/ TS-590 G共通] パラメーター: TS-590S/ TS-590SG: P1 005 ~ 100: SSB/ CW/ FM/ FSK 005 ~ 025: AM TS-590D/ TS-590DG (TS-590S/ TS-590SGの50W/ パワーダウン改造時を含む): P1 005 ~ 050: SSB/ CW/ FM/ FSK 005 ~ 025: AM TS-590V/ TS-590VG: P1 001 ~ 010: SSB/ CW/ FM/ FSK (HF帯) 001 ~ 020: SSB/ CW/ FM/ FSK (50MHz帯) 001 ~ 005: AM ・ パワーファイン機能がオンのときは、1W刻みで設定できます。 ・ パワーファイン機能がオフのときは、5W刻みで設定できます。 もし5W刻みでない値を入力した場合、端数は切り下げ、5W刻みで設定できる値に補正されます。 (例:P1に093と入力した場合、090に補正されます。) ・ TS-590V/ TS-590VGはパワーファイン機能の設定に関わらず常に1W刻みの設定になります。 ・ 設定時に最小値以下の値を入力した場合は最小値に、最大値以上の値を入力した場合は最大値になります。
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
設定	P	C	P1	P1	P1	:					・ パワーファイン機能がオンのときは、1W刻みで設定できます。 ・ パワーファイン機能がオフのときは、5W刻みで設定できます。 もし5W刻みでない値を入力した場合、端数は切り下げ、5W刻みで設定できる値に補正されます。 (例:P1に093と入力した場合、090に補正されます。) ・ TS-590V/ TS-590VGはパワーファイン機能の設定に関わらず常に1W刻みの設定になります。 ・ 設定時に最小値以下の値を入力した場合は最小値に、最大値以上の値を入力した場合は最大値になります。
読み出し	P	C	:								
応答	P	C	P1	P1	P1	:					

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3. pdfより抜粋)

10 : モードの復元

MD<05>

- • 送信 [MD\$] (\$:①での受信文字列), 0.5秒待機 (返信は無視)

MD	運用モードの設定、読み出し										[TS-590/ TS-590 G共通]
設定	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	パラメーター: P1 0: 未使用 (設定不可) 1: LSB 2: USB 3: CW 4: FM 5: AM 6: FSK 7: CW-R 8: 未使用 (設定不可) 9: FSK-R
	M	D	P1	:							
読み出し	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	M	D	:								
応答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	M	D	P1	:							

(ts590\_g\_pc\_command\_ja\_rev3.pdfより抜粋)

\* : SWR 読出し時の完了検出パラメータ

15, 5, 0      N, n, M

N : SWR 値がこの設定値以下になればSWRがOK確認の範囲に入った意味です

n : モーターを停止するSWR 値 (リグにより変わります)

M : Y a e s u = 0、 I C O M = 1、 K e n w o o d = 2 を指定してください

N:15、n:5は例としての値です・・・実機調査・メーカー問合せで決定が必要です。

N (SWRlow) は大まかにはSWR 値 2. 5 のリグ返信値を設定

この値がチューニング完了の上限値です。

n (SWRok) はほぼOKと思われるSWR 値 1. 5 程度のリグ返信値を設定

この値を下回るとモーターを停止してチューニング完了します。

調整完了で停止する条件はリグからのSWR 値がL o w 値以下であってO k 値になった場合、もしくはO k 値より大きくてもいったんL o w 値以下に下がってその後上昇に転じたとき完了停止します。